

TECUM の過去・現在・近未来

長岡 亮介

「TECUM って一体何をやるの？」 奇妙な言葉にはじめて接した方からの疑問に少しでもお答えするために短いものをここに書きます。より具体的なイメージを理解していただくには拙著『数学の二つの心』(日本評論社)をお読みいただくのが早道だと思います。

TECUM は 2010 年から、ほぼ月例で開催して来た明治大学『数理教育セミナー』と、「少し高い立場から学校数学シリーズ — 教師のための学校数学& 教員志望者のための現代数学」出版を目指す『KNK¹ プロジェクト』という二つの活動に起源にもつものであります。

意気軒昂とはいえ、現時点では、実質数十名に満たない、しかし数学教育に鋭角的な関心を抱く教員、研究者、編集者、出版関係者のヴォランティアの集まりに過ぎません。

私はこの集団のみなさんと一緒にいろいろな活動をして参りましたが、「古稀を祝う会」(2017.7.22)と新刊『数学の二つの心』の出版(2017.9.26)を挟んで、2017.7.15 に発見された胃癌について外科手術を 2017.9.18 に受けることになり、人生の残された時間について、いままで以上に真剣に想い、上の活動を、今後、より広く、より永続的に展開し得るための工夫をいろいろと考えました。そしてやがては、全国規模の研究会や研修会を開催し、国際的な学術誌の一角を占めることのできるような機関誌を発行することを通じて、日本と世界の数学教育に貢献し得る持続的な発展の可能な組織を夢想するに至りました。それが TECUM です。

そのためには、最初は上述の運動体メンバーを中心に、事務を可能な限り簡素化してとりあえずは、《提案→審議→合議→活動→評価→》のサイクルを機動的に行うことのできる組織として小さく出発し、資金的な余裕を満ち、独立した事務局をもち、組織の全国展開をはかるという多段階戦略構想です。

このような組織をもっとも簡単に作るには、「NPO 法人」が一番簡単で便利なのですが、法人、企業等からの寄付を受けることができる(⇨寄附金の税法上の控除が認められる)「認定 NPO」と認められるためには、「1 年に 3,000 円以上の無償の寄付² をしてくれる賛助会員が 2 年間に渡り全国に 200 名以上存在する」ことが必要要件になっています。

そこで、TECUM は「認定 NPO 法人」格を 2 年後に認めてもらうために、2018 年から、200 名以上の賛助会員をもつ運動体として、活動を開始したいと思います。認定 NPO 法人として認可を受けるまでは法人の賛助会員は期待できませんので、基本的に、個人の

- 一般会員
- 賛助会員

からなり、TECUM の活動は一般会員を中心として行うものの、**上に述べた趣旨から、法人としての重要性は、賛助会員にあります。**また、寄附金額を法律の定める最小値に合わせるのは露骨過ぎてはしたくないと思い、500 円を上乗せすることが、一般会員の会費とともに機関決定されました。(会員の会費の詳細は会員種別をまとめたファイルをご参照下さい)

¹KNK は Klein ist nicht klein! (クラインは小さくない!) の頭文字に由来します。二十世紀初頭の大数学者 フェリックス・クライン Felix Klein が学校教育に対してもっていた並々ならぬ深い関心と高い見識に敬意を表す意味です。

²無償とは、「寄付に対していかなる利益の還元も受けない」ということです。この制約のために TECUM の定期的な学術・教育活動に賛助会員は御参加いただくことができません。そこでこれらとは別に定期的なお知らせ(仮称『TECUM レター』)を賛助会員に電子的に発信する予定です。

2018年度(後述のように2018年1月～2018年12月)は準備的な始動の1年目にありますので、現在**理事会準備会**として活動しているメンバーを中心に、一般会員からボランティアを募り**拡大理事会準備会**を構成し、活動を開始します。

2018年度の活動は、主に、**機関誌の発行、研究会の組織、および将来構想の明確化**です

- **機関誌**は編集委員会の責任で査読、編集、監修されるもので、季刊(Feb., May, Aug., Nov.)を目標としています。「数学教育を活性化させるための新しいアイデア」、「学校や教室が《停滞》する原因に迫る分析」、「海外の研究者の貢献の紹介」その他、といった複数の柱で構成され、号に応じて弾力的な工夫がなされます。その他、私が、昔から書いて来た「数学史という世界」等の連載も検討しています。
- **研究会**も機関誌とほぼ同期して年に4回ほど開催される予定です。場所は毎回変更されますが、当面は東大駒場キャンパス内の教室がもっとも有力です。
- **拡大理事会準備会**が毎月開催され、各種委員会の活動状況を確認し、機関誌発行、研究会組織の順調な進行を確認、支援します。

少なくとも、初年度は、経費を削減するため、機関誌の発行は、デジタル情報(電子ファイル)の電子的な配布を原則とします。そのため、収入の大部分は、各種委員会、研究会のための会場費に当てられます。遠方からの参加する人のための交通費、宿泊費の補助も初年度は見送るつもりです。

TECUMの研究会や機関誌が、一部の学術業績のない方が「ギョーセキを上げる」ための場として利用されることがないようにするため、認定NPO法人格を得る段階に向けて、**組織防衛のために重要な組織改革プラン**を2年かけて練り上げます。

TECUMの活動の年度区切りは西暦と同期させ、

1. 助走準備期 2017年9月～2017年12月
2. 助走第一期 2018年1月～2018年12月
3. 助走第二期 2019年1月～2019年12月
4. 正式第一期 2020年1月～2020年12月

と考えておりますが、認可次第では正式第一期を前倒しすることができるかも知れません。

認定NPO法人TECUMが誕生すると、学校、出版社などの法人、企業に法人賛助会員になっていただくことができ、より大きな予算が見込めます。いまの段階では、まさに「絵に描いた餅」ですが、もしこのようになったら、事務局の独立化、機関誌を基にした書籍の出版、全国研修会の組織などの基幹的な業務の他に、《教員・講師の紹介》事業、《ライバル進学校間の交流》事業、《学校内教育と学校外教育をつなぐ輪》の構築事業、《特別な才能の発掘》事業、《slow learnerと卑下されがちな子どもに潜む可能性の発見》事業、その他の業務に手を広げて行きたいと考えています。